

2 政策の企画・実行にあたっての基本方針

(1) まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則

市総合戦略では、人口減少の克服と本市の創生を確実に実現していくため、国総合戦略で掲げられている「まち・ひと・しごと創生」政策5原則に基づき、関連する施策を展開します。

【まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則】

| | |
|------|--|
| 自立性 | 各施策が一過性の対処療法的なものでなく、構造的な問題に対処し、かつ継続的に取り組んでいけるように、地元企業や金融機関等の協力を得ながら事業を進めていきます。 |
| 将来性 | 将来どのようなまちにしたいのか、どのようなまちにしていくのかという将来像に基づき、各施策の策定に当たりました。今後についても、社会情勢の変化や国及び県の動向を踏まえながら情報収集及び分析を行い、将来像について検証していきます。 |
| 地域性 | 市の社会的特性や地理的特性など、客観的データに基づき分析や将来予測を行い、地域の実情に応じた施策の企画及び実施を進めていきます。 |
| 直接性 | 限られた財源の中で最大限の成果が得られるように、移住・定住の促進やしごとの創出、まちづくりに直接的・効果的な施策について、集中的に取り組んでいきます。あわせて、必要に応じてより効果が得られるよう、施策の実施において民間を含めた連携体制の整備を図っていきます。 |
| 結果重視 | 政策分野ごとの数値目標及び各種施策における重要業績評価指標（KPI） ¹ の設定により、明確なPDCA ² サイクルの下で、事業の効果や進捗状況の検証を進めていきます。また、成果の検証結果により取組内容の変更や中止の検討が行われるプロセスが組み込まれている場合は、柔軟に事業の見直しを行うなど、目標の達成に向けて取り組んでいきます。 |

¹ 重要業績評価指標（KPI）：

Key Performance Indicator の略称。

施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標をいう。

² Plan-Do-Check-Action の略称。

Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと。Plan-Doとして効果的な地方版総合戦略の策定・実施、Checkとして地方版総合戦略の成果の客観的な検証、Actionとして検証結果を踏まえた施策の見直しや地方版総合戦略の改訂を行うことが求められる。

(2) P D C A サイクルによる進行管理

市総合戦略を推進していくためには、地域課題に基づく適切な短期・中期の政策目標を設定し、各施策・事業の進捗を検証し、改善するP D C Aサイクルを確立していきます。

市総合戦略は、盛り込む政策分野ごとに5年後の基本目標を設定して、基本目標には、行政活動そのものの結果（アウトプット）ではなく、その結果として住民にもたらされた便益（アウトカム）に関する客観的な数値目標を定めてきます。

また、各政策分野に盛り込む具体的な各施策について、客観的な重要業績評価指標（K P I）を設定しています。

市総合戦略のP D C Aサイクルによる効果・検証は、その妥当性、客観性を担保するため、行政の内部組織だけでなく、外部有識者による組織を整備して行い、その結果、必要に応じて見直し改善を行い、より効果のある施策の展開を図ります。

(3) 地域間の連携推進

市単独ではなく、市町村との連携により効果的な施策・事業の実施が期待できるため、国、県の地域連携施策を活用しつつ、近隣市町村との連携を積極的に進めながら、市総合戦略を推進します。